

令和元年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1491000632	事業の開始年月日	平成30年7月17日
		指定年月日	平成30年4月1日
法人名	株式会社 コムロード		
事業所名	もえぎケアセンター幸ヶ丘		
所在地	(〒244-0815) 神奈川県横浜市戸塚区下倉田町1516		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和元年8月23日	評価結果 市町村受理日	令和2年1月30日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

初詣・お花見といった季節行事をはじめ入居者が楽しめるようスタッフ同士意見を出し合い工夫している。
食事はスタッフが考えたバランスの取れたメニューを旬の新鮮な食材を使い手作りで提供している。また、入居者からの要望があればすぐにメニューに取り入れている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	令和元年9月12日	評価機関 評価決定日	令和元年11月20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の優れている点】 ◇利用者の心を和ませ機能を維持する取り組み ・利用者が、その人らしく毎日を生き生きと過ごせるように、歌唱学習療法などを取り入れ、開所一周年日には、利用者参加の大掃除を実施している。また、幼児連れで介護に当たる職員もいて、利用者、職員が見守る中で幼児が過ごし、事業所が一つの家族のような雰囲気になって、利用者の癒やしや生きる力に繋がっている。 ◇医療機関との連携による安心の健康管理 ・内科医の月2回の訪問診療と往診、歯科医の毎週の往診、看護師の毎週の訪問看護と随時のテレビ電話による健康相談に加え、24時間医療連携体制があり、利用者と家族の安心感を得ている。 ◇利用者の希望に添った食事の提供 ・食事は、利用者の希望を取り入れ毎日変更できるよう、磁気カードに献立を記入してボードに貼るようになっており、職員が季節の食材を使って希望の料理を提供し、喜ばれている。 【事業所が工夫している点】 ◇生活に彩りを添える多彩な行事 ・月に一回程度、お寿司や和食の店に出かけたり、利用者の希望で水族館を見学したりしている。季節感を出すため七夕にはリビングを笹や短冊で飾り、利用者には浴衣を着て楽しんでもらったり、生活に彩りを添える様々な行事を実現している。
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	もえぎケアセンター幸ヶ丘
ユニット名	ラベンダー

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念と5つの指針についてユニットごとにミーティングで実践できているか話し合いながらサービスを提供している。	・理念である「一人一人に合ったサービスによるゆとりと夢のある苗木の実現」のため、入職時に研修している。 ・日々の介護の中で具体的にどのようなことが理念の実践に繋がるのか、管理者が職員に話をしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流はないが地域の祭りへの参加、地域の子供会主催のハロウィンイベント、町内会の防災訓練に参加している。	・自治会に加入し、町内会の防災訓練や子供会のハロウィンへの催しに参加するとともに、散歩や公園でのレクリエーションなど近隣とのお付き合いをしている。	・開所以来日が浅く、地域との日常的な協力関係を築くため、自治会長との連携関係を深め、事業所の行事に招待するなど交流を深める取り組みを進めることが期待されます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談があった場合は、アドバイスをしている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回開催している。活動報告を行いそれに対する意見はサービスにいかしている。さらに地域の情報交換も行い毎回意見交換が行われている。	・地域包括センター職員、家族代表、事業所管理者などが参加して意見交換し、職員会議で職員に内容を伝えている。 ・参加者の意見で、ヒヤリハットの様式を第三者にも分かりやすく変更した事例がある。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる		・利用者の要介護申請の代行時などで区との接触はあるが、開所以来日が浅く、日常的な協力関係を築くには至っていない。	・運営推進会議の議事録を区に持参し、事業所の取り組みについて説明するなど、担当窓口と十分な連携がとれるよう工夫することが期待されます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について全員定期的にミーティングで学習して防止に努め「身体拘束等適正委員会」を運営推進会議で開催し現状報告をしている。ユニット入り口の電子ロックについてはご家族に説明し理解を得ている。	・2か月に1回、身体拘束防止に関する研修を実施し、不適切な言葉かけや放置も含め、職員同士話し合っている。 ・玄関は施錠しているが、外出の気配がある場合は、職員が散歩や買い物などに付き添っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については身体拘束と合わせて学習しており防止に努めている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	出来ていない			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前も入居後も不安や疑問にはきちんと説明して理解を得ている。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や要望書で意見を聞いたり、運営推進会議の家族参加者から意見を聞き反映させている。	・面会時や運営推進会議で家族の話を聴いている。 ・毎月、行事・日常生活・体調などについて「今月のお知らせ」を家族に送付し、これに対する意見・要望などを聴取して事業所の運営に反映している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや日々のスタッフからの要望や提案は、管理者が会議で代表者に伝えている。	・毎日のミーティングや月2回の打ち合わせ時に意見や提案について話し合うほか、職員は気がついたことは日々管理者に伝えている。 ・職員の提案で「今月のお知らせ」の記入方法を読みやすく変更したことがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与面も職場環境も従業者ここを把握してやりがいある職場であるよう努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得の研修費負担などスタッフのスキルアップを支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	法人内管理者同士での勉強会やサービスの質の向上についての話し合いは定期的に行い十分刺激し合っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前も後も不安な気持ちを十分理解しながら関係作りをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の時から要望に耳を傾け、入居後も不安がないように関係作りをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容から現状を把握した上で必要とされる支援を行い、訪問マッサージなど本人・家族の望むであろうサービスの提案をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分で出来ることは時間がかかっても行えるよう見守り、一緒にお手伝いをしていただきながら共に生活をしている関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院同行や外出・外泊など出来る範囲でお願いしている。要望があれば同じ食事を家族にも提供している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は自由に来ていただき、お墓参りや馴染みの場所へは、ご家族が同行している。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の行きつけの店での買物や食事、これまで慣れ親しんだ人のお付き合いなどが継続するよう支援している。 ・利用者の「田舎へ行きたい」との希望を聞き、家族同伴で1泊2日の旅行をしたことがある。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事手伝いを皆で行ったりレクリエーションを行ったりすることで連帯感が生まれ、声を掛け合って生活している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院の場合、面会に行くなどその後の様子も気にかけている。退去後も相談にのり連絡を取り合っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	思いを表出出来る方には意見を聞きそうでない方には本人が望んでいるであろうことを検討している。	・入浴中や居室で職員と片付けをしているときなどに、利用者の思いや希望を聞き出せることがあり、職員間で情報を共有している。 ・表現ができない利用者の場合は、家族の話や利用者の表情、仕草から思いを汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族やケアマネジャーからこれまでの生活の情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りや定期的に行うケアカンファレンスで現状把握をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	しっかりアセスメントをし、家族からの要望書や個人担当者からの意見なども反映してケアプランを作成している。	・介護計画は、家族、職員、スタッフや医療関係者の意向や指示に基づき、1～3か月、最長6か月で見直し、家族の了解を得て実施している。 ・日々の利用者の様子を経過シートに詳しく記録し、次回の計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの内容を個人記録に記入して情報を共有し、またケアカンファで話し合いながらプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その方の現状に合わせて柔軟なサービスを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握と活用は今後の課題としている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間体制の往診医がつき2回訪問診療している。緊急時にも往診や指示があり適切に医療が受けられている。	・利用者の了解のもとで、全員が協力医を受診し、定期的な訪問による診療の他、急病時の往診や健康管理面の指導を受けている。 ・必要に応じ協力医の紹介を受けて内科以外の専門医を受診するなど、適切な医療を受けられるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護に加え週二回のテレビ電話を使用した入居者の体調管理を介護職員の記録をもとに周知しアドバイスをもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は早期退院に向け病院や家族と情報交換をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にも説明しているが、その時が来たら往診や家族と話し合い家族の意向に添えるようにしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の開始以来日が浅いので、ケアターミナルの経験はないが、看取りまで対応できる方針を文書で示し、入居時説明して、同意書までとっている。 ・訪問看護師、医師とは協力体制を組めるように提携している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者の重度化、看取りの支援を実行するために備え、職員の研修を実施することが期待されます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は受けていない。今後消防隊員から応急手当の指導を受け、往診医や看護師から指導をうけていく。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町内会の防災訓練に参加している。	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時に備え、年2回の避難訓練を実施している。2ユニット同時に全員対象で駐車場までの避難の実績がある。 ・施設内は利用者の居室まで含め、スプリンクラーを備えている。 ・避難訓練日は自治会長に知らせている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時に備えて、備蓄品は食料品、水のほかにトイレや防寒具などについても、検討することが期待されます。 ・備蓄品はリストアップし、交換時期なども明確化するすることが望まれます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合わせた声かけをしながら人格を尊重して対応している。	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者の個人記録はリビングの鍵のかかるロッカーへ保管している。 ・プライバシー保護に関する研修は職員入社時に行っている。 ・入居者の人格を尊重して、毎日生き生きと過ごせるように、例えば歌を歌う学習療法などを実施している。 	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定出来るように声かけを工夫したり思いや希望を表出出来る雰囲気作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常の生活において無理強いすることではなく、その日の状態に合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一緒に買い物に行って洋服を選んだり、好みを把握しておしゃれができるように支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は手作りで毎日手伝う方や時々手伝う方がいる。行事食や外食、誕生日会には本人の好みをとりいれ献立作成している。	<ul style="list-style-type: none"> ・食事メニューは毎日変更できるように、磁気カードに献立を記入してボードに貼って掲示している。利用者の要望を容易に入れられるので喜ばれている。 ・月に1回程度、利用者の希望を聞いて外食をしている。 ・茶碗、マグカップ、はしは利用者の馴染みのものを持ち込んでいる。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量やバランス、水分量は持病により違いがあり一人一人に合わせている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士による口腔ケア指導があり、スタッフも指導をうけてケアをしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を基に排泄パターンを把握して声かけや誘導を行い、トイレでの排泄を支援している。	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの排泄パターンを正確に把握できるように、排泄表がマニュアル化されている。 特に夜間の排泄のために、ポータブルトイレを使用している。 トイレのプライバシー保護はカーテンやドアで徹底している。 	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を確認し水分量や散歩などを工夫し、また医師・看護師に相談をし排便コントロールをしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	個々に合わせ時間や回数を調整している。	<ul style="list-style-type: none"> 入浴は週2～3回としているが、毎日でも可としている。 入浴を嫌う入居者には、支援者を変えたり、声掛けに気を配って支援している。 浴室の着替え場所は2重のカーテンで仕切っていたり、同性介助でプライバシー保護に気を使っている。 	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の睡眠状態や状況を把握して入床や休息の時間に変化をつけ安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の服薬状況がいつでもわかるように個人ファイルに薬の処方説明書がある。変更がある場合には記録してスタッフ全員周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の能力に合わせ家事などの役割を持っている。また、歌や談話、学習療法などレクリエーションを楽しめるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のいい日には、近所の公園へ散歩に出かけたり、季節毎に外出の企画をし実施している。	<ul style="list-style-type: none"> ・外出を日課として、お天気が良ければ毎日散歩している。 ・外出については年度末まで企画され、計画的に実施している。 ・予定外の要望で、TVを見て江の島水族館に行った例もある。 ・イモ掘りを予定しているが、家族まで知らせて、ともに喜んでもらうことを計画している。 	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは預かっているが、出来る人には自由に買い物を楽めるよう支援している。訪問販売のパン屋では、本人がお金を払い楽しまれている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の補助や管理を行っている。手紙を出したい方には本人と散歩がてら投函しに行ったり、スタッフが都度投函している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度や湿度など空調には十分気を配り快適な環境づくりをしている。リビングや廊下・玄関などには季節毎の装飾装飾を行い楽しんでいただいている。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 共通空間としての居間は、採光も十分で、温湿度も適切に調整されている。 ・ 季節感を生み出す工夫をしている。例えば七夕の時は、笹や短冊で飾り、利用者には浴衣を着せて喜んでもらった。 ・ 利用者間の軋轢には気を配り、ユニットを変更したりしている。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは気の合う入居者同士が座ることで安心感を持っていただき、レクリエーションを行う際は、席を移動したりとその時の状況に合わせた対応をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や家族の写真、お気に入りの置物などを飾り一人一人個性のある居室となっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎日、日勤者が朝に居室の掃除を行っている。時には入居者も一緒に掃除をしている。 ・ 居室にはクーラーと備え付けのロッカーが設備されているだけで、ベッドはじめ家具はすべて利用者の持ち込みとなっている。 ・ 設立1周年記念で全入居者も入れて大掃除を行い、喜ばれた。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	表札や案内板を使用しわかりやすくなっている。また、動線には手すりや安全に移動が出来るようになっている。		

事業所名	もえぎケアセンター幸ヶ丘
ユニット名	ジャスミン

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念と5つの指針についてユニットごとにミーティングで実践できているか話し合いながらサービスを提供している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流はないが地域の祭りへの参加、地域の子供会主催のハロウィーンイベント、町内会の防災訓練に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談があった場合は、アドバイスをしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回開催している。活動報告を行いそれに対する意見はサービスにいかしている。さらに地域の情報交換も行い毎回意見交換が行われている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について全員定期的にミーティングで学習して防止に努め「身体拘束等適正委員会」を運営推進会議で開催し現状報告をしている。ユニット入り口の電子ロックについてはご家族に説明し理解を得ている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については身体拘束と合わせて学習しており防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	出来ていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前も入居後も不安や疑問にはきちんと説明して理解を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や要望書で意見を聞いたり、運営推進会議の家族参加者から意見を聞き反映させている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや日々のスタッフからの要望や提案は、管理者が会議で代表者に伝えている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与面も職場環境も従業者ここを把握してやりがいある職場であるよう努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得の研修費負担などスタッフのスキルアップを支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	法人内管理者同士での勉強会やサービスの質の向上についての話し合いは定期的に行い十分刺激し合っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前も後も不安な気持ちを十分理解しながら関係作りをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の時から要望に耳を傾け、入居後も不安がないように関係作りをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容から現状を把握した上で必要とされる支援を行い、訪問マッサージなど本人・家族の望むであろうサービスの提案をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分で出来ることは時間がかかっても行えるよう見守り、一緒にお手伝いをしていただきながら共に生活をしている関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院同行や外出・外泊など出来る範囲でお願いしている。要望があれば同じ食事を家族にも提供している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は自由に来ていただき、お墓参りや馴染みの場所へは、ご家族が同行している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事手伝いを皆で行ったりレクリエーションを行ったりすることで連帯感が生まれ、声を掛け合って生活している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院の場合、面会に行くなどその後の様子も気にかけている。退去後も相談にのり連絡を取り合っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	思いを表出出来る方には意見を聞きそうでない方には本人が望んでいるであろうことを検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族やケアマネジャーからこれまでの生活の情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りや定期的に行うケアカンファレンスで現状把握をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	しっかりアセスメントをし、家族からの要望書や個人担当者からの意見なども反映してケアプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの内容を個人記録に記入して情報を共有し、またケアカンファで話し合いながらプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その方の現状に合わせて柔軟なサービスを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握と活用は今後の課題としている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間体制の往診医がつき2回訪問診療している。緊急時にも往診や指示があり適切に医療が受けられている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護に加え週二回のテレビ電話を使用した入居者の体調管理を介護職員の記録をもとに周知しアドバイスをもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は早期退院に向け病院や家族を情報交換をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にも説明しているが、その時が来たら往診や家族と話し合い家族の意向に添えるようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は受けていない。今後消防隊員から応急手当の指導を受け、往診医や看護師から指導をうけていく。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町内会の防災訓練に参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合わせた声かけをしながら人格を尊重して対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定出来るように声かけを工夫したり思いや希望を表出出来る雰囲気作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活において無理強いすることなく、その日の状態に合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一緒に買い物に行って洋服を選んだり、好みを把握しておしゃれが出来るように支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は手作りで毎日手伝う方や時々手伝う方がいる。行事食や外食、誕生日会には本人の好みをとりいれ献立作成している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量やバランス、水分量は持病により違いがあり一人一人に合わせている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士による口腔ケア指導があり、スタッフも指導をうけてケアをしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を基に排泄パターンを把握して声かけや誘導を行い、トイレでの排泄を支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を確認し水分量や散歩などを工夫し、また医師・看護師に相談をし排便コントロールをしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	個々に合わせ時間や回数を調整している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の睡眠状態や状況を把握して入床や休息の時間に変化をつけ安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の服薬状況がいつでもわかるように個人ファイルに薬の処方説明書がある。変更がある場合には記録してスタッフ全員周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の能力に合わせて家事などの役割を持っている。また、歌や談話、学習療法などレクリエーションを楽しめるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、近所の公園へ散歩に出かけたり、季節毎に外出の企画をし実施している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは預かっているが、出来る人には自由に買い物を楽しめるよう支援している。訪問販売のパン屋では、本人がお金を払い楽しませている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の補助や管理を行っている。手紙を出したい方には本人と散歩がてら投函しに行ったり、スタッフが都度投函している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度や湿度など空調には十分気を配り快適な環境づくりをしている。リビングや廊下・玄関などには季節毎の装飾装飾を行い楽しんでいただいている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは気の合う入居者同士が座ることで安心感を持っていただき、レクリエーションを行う際は、席を移動したりとその時の状況に合わせた対応をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や家族の写真、お気に入りの置物などを飾り一人一人個性のある居室となっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	表札や案内板を使用しわかりやすくなっている。また、動線には手すりなどで安全に移動が出来るようになっている。		

目標達成計画

事業所名 もえぎケアセンター幸ヶ丘

作成日 令和2年1月25日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1		市町村との連携	市町村との情報を共有する	ケアマネ会議など情報共有の場に参加	6ヶ月
2		看取り研修への参加	外部研修への参加 社内研修の実施	社外の研修に積極的に参加を促し、社内での勉強会を実施	3ヶ月
3		防災用具、備品リストの作成	一覧表を作成する	現在一覧表を作成中	3ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。